

第三回 e-Learning 研究会 招待講演



日本の高等教育機関における e-Learningの現状と課題 教員と支援スタッフの役割を中心に

2007. 2. 19

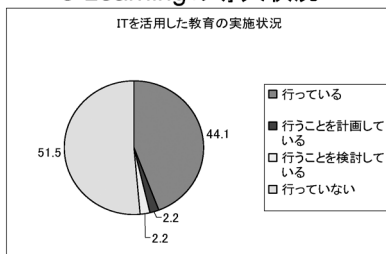
第3回e-Learning研究会
国士館大学・情報科学センター

アウトライン



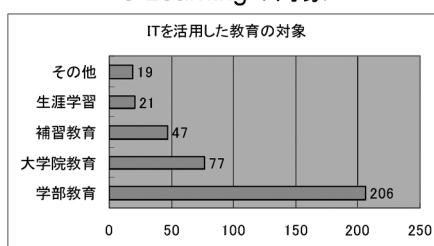
- 日本の大学におけるe-Learningの現状と課題
- e-Learningに必要な支援体制
- 日本の大学におけるe-Learning推進の真の課題
- メディア教育開発センターにおけるe-learning支援の取り組み

日本の4年制大学における e-Learningの導入状況



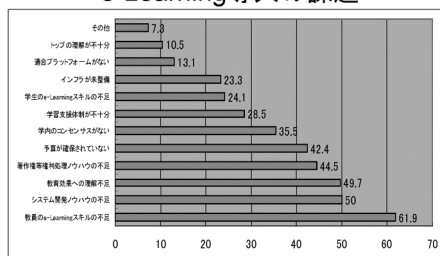
出典: e-Learning等のITを活用した教育に関する調査報告書(NIME2005)

日本の4年制大学における e-Learningの対象



出典: e-Learning等のITを活用した教育に関する調査報告書(NIME2005)

日本の高等教育機関における e-Learning導入の課題



出典: e-Learning等のITを活用した教育に関する調査報告書(NIME2005)

eラーニング導入のパターン



導入規模	特徴	課題
教員/ コース	・小規模予算で実施可能 ・高いモチベーション	・成功が単独コースに留まる ・個人の責任 ・低レベルな実装
プロジェクト	・組織的支援 ・教員が参加しやすい	・長期継続が困難 ・学部、研究科との関係調整
教育機関/ 学部・研 究科全体	・全学的支援 ・教育革新の可能性	・大規模な利用を支える体制 ・専門職の不足 ・教員、学習者の役割変化
大学間連携	・大学コンソーシアム ・得意な科目を提供	・共通カリキュラム ・単位認定 ・学期/開講時間の調整

WISE (Web-based Information Science Education) とは



- ・ 情報学分野の教育の質・アクセス・多様性を高める協調オンライン型遠隔教育モデル
- ・ 2004年にシラキュース大学情報学科とイリノイ大学図書館情報学科により開始
- ・ 過去2年間に133コースを提供し198名が受講
- ・ Alfred P. Sloan Foundationの2006 Effective Practice Award for Excellence in Online Teaching and Learningを受賞
- ・ 現在の参画大学
 - University of Maryland
 - Rutgers University
 - Simmons College
 - Syracuse University
 - University of British Columbia
 - University of Illinois at Urbana-Champaign
 - University of North Carolina-Chapel Hill
 - University of Pittsburgh
 - University of Texas at Austin
 - University of Western Ontario
 - University of Wisconsin-Milwaukee
 - Victoria University of Wellington

e-Learningに必要な支援体制



ITインフラと学習管理システム

受講生への支援

教員への支援

e-learningに関わる専門家

E-learningコース開発・実施の流れ

受講生への支援



- ・ 特殊な技術がなくても受講できる
- ・ 技術的質問への対応(ヘルプデスク)
- ・ コース受講支援
 - メンタリング(TA・メンタ)
 - チューター(TA)
- ・ オリエンテーションの実施
 - ネットワーク
 - アクセス頻度
 - スケジュール
 - 提出物の概要と期限
 - 成績評価条件
- ・ 図書館サービス
 - 図書貸出
 - 雑誌論文コピー(電子ジャーナル)
 - デジタルレファレンスサービス

教員への支援



- ・ 教材開発支援
 - 資料提供(電子ジャーナル等)
 - 技術的質問への対応(ヘルプデスク)
 - 著作権処理
- ・ コース運営支援
 - メンタリング(TA、メンタ)
 - ディスカッション
 - 成績評価

e-Learning実施に関わる専門家



人材の種類	役割
インストラクタ	コースの内容を設計・作成し、授業を実施する
インストラクショナルデザイナー	インストラクショナルデザインの手法を用いて、コースの素材とシステムを開発する
コンテンツスペシャリスト	メディアの特性を踏まえて、コースの内容や実施方法に適切な素材を制作する
システム開発者	e-Learning支援システムや支援ツールの設計、開発、評価を担当する
ライト・マネージャー	コースに搭載する文献や素材の著作権処理を担当する
メンタ	受講者との質疑応答や情意面からの学習支援を担当する
ライブラリアン	受講者やインストラクタにオンラインでレファレンスサービスと必要な文献や資料を提供する

e-learningコース開発・実施の流れ



eLPCO

	分析	設計	開発	実施	評価
インストラクター					
インストラクショナルデザイナー					
コンテンツ・スペシャリスト					
ライト・マネージャー					
メンタ					
ライブラリアン					
ヘルプデスク(技術支援)					

コンテンツの公開・共有と再利用

背景

- 教材開発コスト

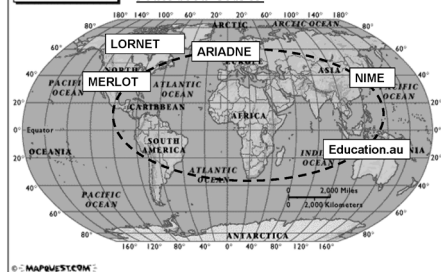
- 教材開発時間

⇒優れた教材を検索・改変して再利用できる仕組みが必要

主な教材公開・共有・再利用の取組

名称	概要
NIMEGlad	大学等がインターネットで配信している学習コンテンツを総合的に検索できるWebサイト (NIME)
日本オープンコースウェア・コンソーシアム OCW	大学で正規に提供された講義とその関連情報のインターネット上での無償公開 (13大学+2組織)
サーバーキャンパスコンソーシアム Ties	高等教育の具体的教育内容の公開と大学連携による教育の質向上と改善を目指すプロジェクト(帝塚山大学)
MERLOT merlot	参加大学の教員が制作したオンライン教材を評価し、その結果を教員の昇任に結びつける(米国)
LORNET lornet	ピアレビュー、コンテンツ改変、ユーザ支援、専門家の育成、コンテンツ流通を推進(カナダ)
Education.au EdNA	オーストラリアの教材共有サイト
ARIADNE ariadne	ヨーロッパに拠点を置く多言語高等教育オンライン教材(知識プール)のレポジトリ
KERIS keris	韓国の高等教育教材共有サイト

The World Federated Search



第3回GLOBE-NIME国際セミナー

「学習コンテンツ国際共有流通のための新しい枠組に向けて:そのビジネスモデルと制約」

"New Frameworks for International Sharing and Distribution of Digital Learning Resources: Sustainability and its Constraints"

日時: 平成19(2007)年2月14(水)・15(木)日

会場: 日本科学未来館・みらいCANホール(東京・お台場)

主催: 独立行政法人 メディア教育開発センター

後援: 特定非営利活動法人 日本イーラーニングコンソシアム(eLC)、IT教育支援協議会、日本オープンコースウェア・コンソーシアム、特定非営利活動法人サイバー・キャンパス・コンソーシアムTIES

日本の大学における e-Learning推進の真の課題

- 教員の意識改革
 - 講義する人⇒受講生の学習を支援する人
 - 専門知識の伝達⇒自学自習スキルの提供
 - 授業・教材は非公開⇒授業・教材を学内外に公開
- 授業改善と質保証
 - 優れた教材の開発・再利用
 - カリキュラム認証・単位互換
- 国際的競争力
 - オフショア・マーケットの開発
 - 教材のローカライゼーション
 - 国境を越えたe-learningの提供
 - 国際的e-learningコンソーシアムへの参加

メディア教育開発センターにおける e-learning支援の取り組み

- 教材共有・再利用と国際展開
 - NIMEGlad [nimeglad](#)
 - GLOBEコンソーシアム [globe](#)
- 教材の開発と提供
 - 補習教材 [READ](#)
 - ICTを活用した教育のための研修講座 [kenshu](#)
- 質問応答サービス
 - ICTを活用した教育に関する相談 [AskME](#)